

病理診断科／病理部



病理部は2002年の4月に検査部から独立して新設された特殊診療施設です。それ以来、附属病院の病理診断業務は病理部の常勤3名（部長と技官2名）と両病理学講座の病理医・技官の協力の下で行ってきました。2008年4月には病理専門医を目指す専門医1名が病理部に初めて入局しました。以後、2014年4月に専門研修医を2名、2015年4月と2017年4月に1名ずつ、2018年4月と2019年4月および2021年4月に2名ずつ、および2020年4月に3名を迎えることができました。2014年10月からは病理診断科を標榜し、現在は病理診断科／病理部となっています。

一昨年度に2017年入局者1名と2018年度入局者1名、昨年度に2018年度入局者1名と2019年度入局者1名が日本病理学会認定病理専門医を取得しました。それでもまだ福井県の病理専門医数は少なく、病理医不足が深刻です。福井県の病理医不足の解消のためぜひ福井大学医学部附属病院病理診断科／病理部が基幹施設となっている福井県で唯一の「福井大学医学部病理専門研修プログラム」を選択して下さい。



26 病理診断科／病理部

部長 (診療教授) (研修統括者)

今村 好章
出身大学 昭和大学医学部（昭和61年卒業）
専門分野 診断病理、甲状腺腫瘍、唾液腺腫瘍

診療内容

組織診断（生検診断、外科病理診断、術中迅速診断、剖検診断）
細胞診断

診療の特色

通常の組織診断・細胞診断に加え、遠隔病理診断（テレパソロジー）を行っています。現在、舞鶴共済病院で作製された凍結切片をバーチャルスライド化することで遠隔迅速診断として使用していますが、他の関連病院との連携も視野に入れていきます。また、臨床医とのカンファレンスや病理医間のコンサルテーション等にも使用しています。

教室員 について

2023年4月1日現在、病理診断科／病理部には医師6名（部長・特命助教1名ずつと医員4名）と技師4名が常勤し、非常勤3名（技師1名・事務員1名・技術補佐員1名）も勤務しています。また、福井県立病院・国立病院機構敦賀医療センターおよび市立砺波総合病院に医師1名ずつが常勤病理医として赴任しています。

専門研修医 募集について

定 員：若干名 出身大学は問いません。

申込締切：病院の締め切りに準じますが、随時相談に乗ります。

選考方法：履歴書、面接

連絡先：科長／部長：今村好章
電 話：0776-61-8439、FAX：0776-61-8439
E-mail：suki@u-fukui.ac.jp

説明会の日時、場所、申し込み締め切り：希望者には適宜連絡します。

研修プログラム

日本病理学会の2年間の初期臨床研修終了後の病理専門医研修要綱に準じて行います。病理専門医となるための研修期間は最短で3年間と決定しており、その3年間に習得すべき各項目を以下に列挙します。

一般目標：病理専門医として適切な医療に貢献するために、診断病理学に必要な知識、技能、態度を身につける。

行動目標：

I 必要な知識

1) 病理業務に関わる知識

1	病理業務に関連する法および制度を説明できる。
2	病理業務に関するリスクマネジメント(医療廃棄物処理を含む)を説明できる。
3	病理業務の資料を管理し、保存できる。
4	病理業務で得られた人体材料を研究に用いる際の手続きを説明できる。

2) 病理診断に必要な知識

1	基本的な病理組織標本の作製過程を説明できる。
2	免疫組織化学(免疫)染色を含む特殊染色の原理を説明し、結果を評価できる。
3	電子顕微鏡(電顕)標本の作製過程を説明し、結果を評価できる。
4	分子病理学的検索の原理を説明し、結果を評価できる。
5	病理診断に必要な臨床的事項を的確に判断し、病理診断との関連性を説明できる。
6	病理診断に対してコンサルテーションの必要性を判断できる。

II 必要な技能

1	病理解剖を執刀できる。
2	臨床事項と考察を含めた病理解剖報告書を作成できる(数値目標:30例以上)。
3	偏らない臓器・組織から得られた生検、手術材料を的確に診断し、報告書を作成できる(数値目標:5000例以上)。
4	細胞診材料を診断し、報告書を作成できる(数値目標:1000例以上)。
5	迅速病理診断において良悪性の判定をし、適切な報告ができる(数値目標:50例以上)。
6	基本的な病理組織標本の作製(切出しから標本作製まで)を実施できる。
7	病理業務におけるバイオハザード対策を実行できる。
8	CPC(Clinicopathological conference)や臨床とのカンファレンスにおいて、病理所見を的確に説明できる。

III 求められる態度

1	病理診断、病理解剖およびCPCなどに際して患者や遺族に対する配慮ができる。
2	病理業務において、臨床医と適切に対応できる。
3	学生、臨床研修医および病理専門医初期研修医に対する病理の指導ができる。

4	病理業務に関してコメディカルと協調できる。
5	病理診断の精度管理について積極的に関与する。
6	学会、研修会、セミナーに積極的に参加する（数値目標：3回以上）。
7	病理業務の社会的貢献に積極的に関与する。
8	人体病理学に関する研究を行い、結果を報告できる （数値目標：学会報告または原著論文3編以上）。

以上の各項目につき5段階評価（1：かなりの努力が必要、2：努力が必要、3：できる、4：かなりできる、5：十分できる）します。また、病理専門医試験申請に必要な条件については数値目標を別に設定します。

これらを習得することにより3年間で病理専門医の受験資格が取得できます。また、同時に細胞診専門医の受験資格も取得可能です。なお詳細は病院ホームページ臨床研修センター研修プログラムの病理専門研修プログラムを参照下さい。

関連病院・ 関連施設

福井赤十字病院	舞鶴共済病院	福井勝山総合病院
福井県立病院	福井総合病院	国立病院機構敦賀医療センター
坂井市立三国病院	日研医学	ファルコバイオシステムズ福井
公立松任石川中央病院	アルプ	公立小浜病院
福井県済生会病院	国立がん研究センター中央病院	がん研究会有明病院
市立砺波総合病院	市立敦賀病院	福井勝山総合病院

認定医・ 指導医の 取得状況

氏名	職名	認定医・指導医の名称	取得日
今村 好章	科長 部長 (診療教授)	日本病理学会認定病理専門医	1998年7月
		日本臨床細胞学会細胞診専門医(指導医)	2000年12月
		日本病理学会病理専門医研修指導医	2006年4月
		日本臨床細胞学会教育研修指導医	2014年4月

その他

毎日朝、当日の迅速診断予約症例の検討を行い、火曜日にはその後に抄読会を行っています。また、隔週月曜日夕方には診断カンファレンスを行っています。他科との定期的なカンファレンスとしては毎週月曜日夕方に消化器内科との内視鏡カンファレンスがあります。さらに月1回整形外科とのカンファレンスも開催されています。病理専門医研修カリキュラム中あるいは研修修了後を問わず、基礎病理学講座（腫瘍病理学講座：小林基弘教授、分子病理学講座：内木宏延教授）で研究を行うことができます。また、大学院への入学も可能です。留学先としてはMayo Clinicがありますが、希望があれば他の施設への留学も可能です。給与所得としては医員給与の他に病理診断の外勤、看護学校・他大学の講義等があり、生活基盤が十分に保障されます。女性医師に関しては出産・育児等のプライベートとの両立に出来る限り配慮いたします。ぜひとも福井県の病理医不足解消のために病理診断科／病理部での「福井大学医学部病理専門研修プログラム」を選択してください。心からお待ちしております。